

## 令和5年1月～3月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和5年1月～3月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800社（回答企業 403社 回答率 50.4%）

2 調査期間 令和5年3月13日（月）～令和5年3月27日（月）

### 3 調査結果概要

今期（1月～3月期）の前年同期比を見ると、業況判断DIは2期連続で改善、採算DI、雇用人員DIはやや改善、資金繰りDIは横ばい、売上高DIがやや悪化となった。

来期（4月～6月期）の予測については、採算DI、雇用人員DIは2期連続で改善、業況判断DIは改善、売上高DI、資金繰りDIは横ばいとなっている。

数値の推移としては、前年同期比は全体的に前回調査より改善、もしくは横ばいが多く、また、次期予測も改善、もしくは横ばいの見通しが多いため、コロナ禍に端を発した景気の悪化はひとまず落ち着いたように見える。

しかし、業種別の各DI値はばらつきが見られ、国内における物価・エネルギー価格の高騰や混乱を続ける国際情勢を併せて見るに、市内企業の業況については予断を許さない状態が続いている。

○業況判断	前年同期比の指標は2期連続で改善（ $\Delta 16.3 \Rightarrow \Delta 11.9$ ） 来期見通しの指標は改善（ $\Delta 11.9 \Rightarrow \Delta 7.4$ ）
○売上高	前年同期比の指標はやや悪化（ $\Delta 5.7 \Rightarrow \Delta 7.9$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $\Delta 7.9 \Rightarrow \Delta 7.4$ ）
○採算	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 13.9 \Rightarrow \Delta 11.2$ ） 来期見通しの指標は2期連続で改善（ $\Delta 11.2 \Rightarrow \Delta 7.4$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標は横ばい（ $3.0 \Rightarrow 3.5$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $3.5 \Rightarrow 3.2$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 6.7 \Rightarrow \Delta 4.0$ ） 来期見通しの指標は2期連続で改善（ $\Delta 4.0 \Rightarrow 4.0$ ）

問い合わせ先

担当課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課  
電話：072-228-7414  
ファックス：072-228-8816

令和5年1月～3月期  
地域産業経営動向調査  
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺商工会議所 〕

## 調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数DI値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800社（建設業 200社・製造業 200社・卸売業 100社・小売業 100社・サービス業 200社）
3. 調査期間 令和5年3月13日（月）～令和5年3月27日（月）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率	
	建設業	200社	100社	50.0%
	製造業	200社	100社	50.0%
	卸売業	100社	52社	52.0%
	小売業	100社	50社	50.0%
	サービス業	200社	101社	50.5%
	全産業	800社	403社	50.4%

### 【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

### 【各項目別のDI値の意味について】

- 業況判断 … DI値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。  
⇒今期状況 … DI値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。  
⇒今期状況 … DI値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

## 調査結果の概観

今期(1月～3月期)の前年同期比を見ると、業況判断DIは2期連続で改善、採算DI、雇用人員DIはやや改善、資金繰りDIは横ばい、売上高DIはやや悪化となった。

来期(4月～6月期)の予測については、採算DI、雇用人員DIは2期連続で改善、業況判断DIは改善、売上高DI、資金繰りDIは横ばいとなっている。

数値の推移としては、前年同期比は全体的に前回調査より改善、もしくは横ばいが多く、また、次期予測も改善、もしくは横ばいの見通しが多いため、コロナ禍に端を発した景気の悪化はひとまず落ち着いたように見える。

しかし、業種別の各DI値はばらつきが見られ、国内における物価・エネルギー価格の高騰や混乱を続ける国際情勢を併せて見るに、市内企業の業況については予断を許さない状態が続いている。

### 1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は2期連続で改善。

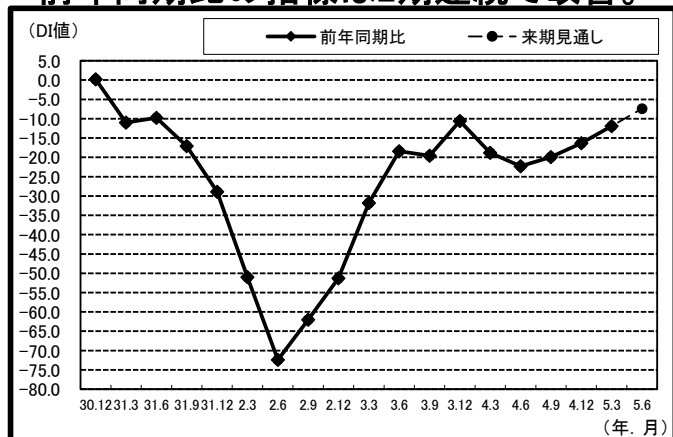
( $\Delta 16.3 \Rightarrow \Delta 11.9$ )

来期見通しの指標は改善と予測。

( $\Delta 11.9 \Rightarrow \Delta 7.4$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、卸売業、小売業、サービス業は改善、建設業はやや悪化、製造業は悪化。

・前年同期比の指標は2期連続で改善。



### 2. 売上高の動向

・前年同期比の指標はやや悪化。

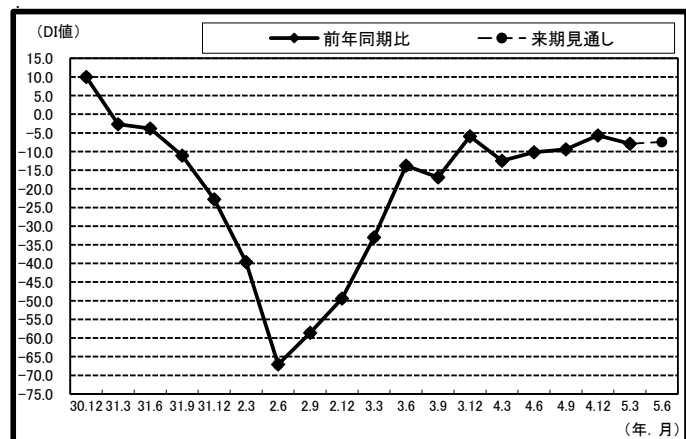
( $\Delta 5.7 \Rightarrow \Delta 7.9$ )

・来期見通しの指標は横ばいと予測。

( $\Delta 7.9 \Rightarrow \Delta 7.4$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、サービス業は改善、建設業はやや悪化、製造業、卸売業、小売業は悪化。

・前年同期比の指標はやや悪化。



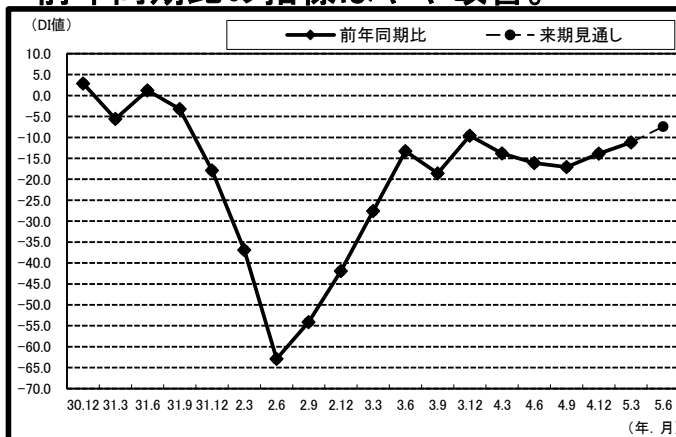
### 3. 採算の動向

・前年同期比の指標はやや改善。  
( $\Delta 13.9 \Rightarrow \Delta 11.2$ )

・来期見通しの指標は2期連続で改善と予測。  
( $\Delta 11.2 \Rightarrow \Delta 7.4$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は2期連続で改善、サービス業は改善、製造業、卸売業はやや悪化、建設業は悪化。

#### ・前年同期比の指標はやや改善。



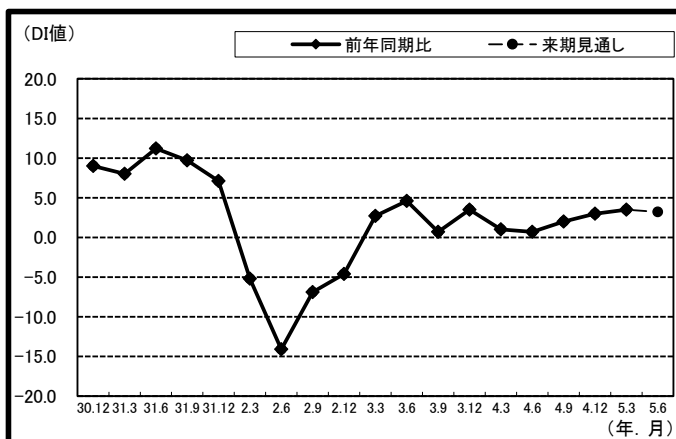
### 4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は横ばい。  
( $3.0 \Rightarrow 3.5$ )

・来期見通しの指標は横ばいと予測。  
( $3.5 \Rightarrow 3.2$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、サービス業は改善、小売業は横ばい、建設業、製造業、卸売業は悪化。

#### ・前年同期比の指標は横ばい。



### 5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標はやや改善。  
( $\Delta 6.7 \Rightarrow \Delta 4.0$ )

・来期見通しの指標は2期連続で改善と予測。  
( $\Delta 4.0 \Rightarrow 4.0$ )

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業、小売業、サービス業は改善、建設業、卸売業はやや悪化。

#### ・前年同期比の指標はやや改善。

